

第 2 回委員会における議論のふりかえり

視点	課題
<p>金沢市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①バス・鉄道等の公共交通の利用者減少 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前の水準に回復しない状況下で公共交通利用促進 ②ポート設置要望の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・ポート設置の考え方の明確化 ③限られた予算の中での事業実施 ④自転車のある暮らしの普及 <ul style="list-style-type: none"> ・学生・高齢者を含む多くの方へ、自家用車に過度に依存しなくても移動できる暮らしを広げていく ⑤全国的な課題への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車以外のシェアモビリティとの役割分担 ・ヘルメットの着用推進、自転車ルール・マナーの普及啓発 ⑥まちと人をつなぐコミュニケーションツールの創出 等
<p>運営事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①自転車再配置・バッテリー交換スタッフの慢性的な不足 <ul style="list-style-type: none"> ・全国的な人手不足、重労働、自動車運転を伴う学生アルバイトの制限 ②積雪時の除雪等の負担 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根付きポートが少ないため、除雪や自転車の故障への対応が必要 ③自転車再配置やメンテナンスコストの増大 ④満車状態や自転車がない状態の発生 <ul style="list-style-type: none"> ・③、④ともに想定以上の利用増加が要因 等
<p>利用者</p>	<p>(サービス全体の満足度は約95%と高いが)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①利用したいときにポートに自転車がないことがある ②バッテリー残量・タイヤの空気不足で利用できないことがある ③返却手続きミスで超過料金が発生することがある ④職場・自宅付近にポートがない ⑤支払方法の選択肢が少ない 等の不満点もあり

※第2回委員会の議論を踏まえて追加した事項

課題	市主体の対応	事業者主体の対応 (大前提:市の施策に積極的に協力する)
①バス・鉄道等の公共交通の利用者減少	<ul style="list-style-type: none"> ・他の公共交通と連携した利用しやすい運賃を企画する ・複数の公共交通を組合わせて使う際の利便性(経路検索・支払いなど)を向上させるため、デジタル交通サービス「のりまっし金沢」を活用する ・サイクルトレインの拡大などの利便性向上策の実施について、他の公共交通機関に働きかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル交通サービス活用のため、API連携に必要なデータやGBFS等のデータの整備と開示を行う ・他の公共交通との連携に資する場所に優先的にポート整備を行う
②ポート設置要望の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートの設置やエリアの設定の基準を明確にし、それを公開する ・再配置の拠点を複数化する(学生との協力も検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の基準に従ったポートの開拓を行う
③限られた予算の中での事業実施	<ul style="list-style-type: none"> ・現まちのりの運営費なみの予算を確保する ・国庫補助や民間資金の活用を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの活用等、様々な手段を用いて、再配置やバッテリー交換、空気の補充等のコスト低減を図る
④自転車のある暮らしの普及	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティマネジメントを通じて、幅広い世代へまちのりの利用を働きかける ・各種地図等を発行、監修等する際に、まちのりについても分かりやすく表示されるよう留意する ・他の公共交通機関との連携して使いやすさを向上させる(①と関連) 	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティマネジメントを通じて、幅広い世代へまちのりの利用を働きかける ・幅広い世代が利用しやすいシステムとする

※第2回委員会の議論を踏まえて追加した事項

課題	市主体の対応	事業者主体の対応 (大前提:市の施策に積極的に協力する)
⑤全国的な課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの遵守とマナーの向上について、<u>インバウンドの観光客も視野に入れて啓発を実施する</u> ・ヘルメットについて、まちのりを利用する際にも着用が必要であることの啓発を続ける ・<u>まちのりの走行データも参考に自転車ネットワーク候補路線を選定するなど、近隣市町とも連携した継続的な自転車通行空間の整備を推進し、自転車が安全で快適に通行できる環境の創出や安全対策を推進(※歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくり)</u> ・ゼロカーボンシティの実現について、モビリティハブとなるポートに再生可能エネルギー発電設備を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの遵守とマナーの向上について啓発を実施する ・ヘルメットの貸出について、利用者の利便性が向上するよう工夫する(どの窓口でも借りられて返せる、コンパクトなヘルメットを整備する、ポートの利用パターンを分析して利用者にとって便利な場所に貸出窓口を設ける、など) ・ゼロカーボンシティの実現について、CO2排出量ゼロの電気を採用する
⑥まちと人をつなぐコミュニケーションツールの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外とまちなかの交流を促せるようなエリア設定を行う ・<u>交通ルールを教えつつ、まちの深い魅力も紹介できるような自転車のガイドを養成する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの商店等と協力する(イベントの開催、サポーター制度の実施、など) ・<u>まちのりを使ってのまちめぐりを促すような取組(まちのりを活用したレスポンスブルツアー～金沢の魅力を感じつつ交通安全や二酸化炭素の排出削減にも貢献できる旅～の開発など)を実施する</u>

※第2回委員会の議論を踏まえて追加した事項

課題	市主体の対応	事業者主体の対応 (大前提:市の施策に積極的に協力する)
①自転車再配置・バッテリー交換スタッフの慢性的な不足		<ul style="list-style-type: none"> 再配置スタッフの労力を軽減する工夫をし、長く働き続けられる環境整備を実施する。
②積雪時の除雪等の負担	<ul style="list-style-type: none"> 屋根付きのポートを整備する 	<ul style="list-style-type: none"> サポーター制度を創設し、サポートメニューに除雪を盛り込む
③自転車再配置やメンテナンスコストの増大	<ul style="list-style-type: none"> 適正なポート密度を保てるよう、公共施設へのポートの設置を進める 	<ul style="list-style-type: none"> AIの活用等、様々な手段を用いて、再配置やバッテリー交換、空気の補充等のコスト低減を図る(再掲) サポーター制度を創設し、サポートメニューに自転車のないポートに返却、パンクを報告、タイヤの空気補充等を盛り込む
④満車状態や自転車がいない状態の発生	<ul style="list-style-type: none"> 適正なポート密度を保てるよう、公共施設へのポートの設置を進める(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> サポーター制度を創設し、サポートメニューに自転車のないポートに返却、パンクを報告、タイヤの空気補充等を盛り込む(再掲)

課題	市主体の対応	事業者主体の対応 (大前提:市の施策に積極的に協力する)
①利用したいときにポートに自転車がないことがある	・適正なポート密度を保てるよう、公共施設へのポートの設置を進める(再掲)	・サポーター制度を創設し、サポートメニューに自転車のないポートに返却、パンクを報告、タイヤの空気補充等を盛り込む(再掲)
②バッテリー残量・タイヤの空気不足で利用できないことがある	・適正なポート密度を保てるよう、公共施設へのポートの設置を進める(再掲)	・サポーター制度を創設し、サポートメニューに自転車のないポートに返却、パンクを報告、タイヤの空気補充等を盛り込む(再掲)
③返却手続きミスで超過料金が発生することがある		・分かりやすく使いやすいシステムを採用する ・利用方法の説明を丁寧に行う
④職場・自宅付近にポートがない	・ポートの設置やエリアの設定の基準を明確にし、それを公開する(再掲)	・左記の基準に従ったポートの開拓を行う(再掲)
⑤支払方法の選択肢が少ない		・支払い方法の多様化について検討を続ける

課題	市主体の対応	事業者主体の対応 (大前提:市の施策に積極的に協力する)
①データ利活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・他の公共交通や人流データとまちなりのデータを重ね合わせて分析を行えるデータ連携基盤を整備する ・まちなりのデータと紐づけて分析すべきかデータが他にないか整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・API連携、GBFSデータの公開など、デジタル交通サービスをはじめ、市民がシェアサイクルを他の交通モードと合わせて利用することに資する技術の前提となる取組行う